

Title	中小企業における人材の確保・育成についての実証的研究
Sub Title	
Author	横山 斉治(Yokoyama, Seiji) 石田 英夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1981
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0177

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 横山 斉 治

主査 石 田 英 夫 教授

副査 関 本 昌 秀 教授

所属ゼミナール 石 田 英 夫 研

奥 村 昭 博 助教授

中小企業における、人材の確保・育成

についての実証的研究

中小企業は、企業数、従業員数において圧倒的多数を占め、その役割は依然として大きい。しかし、大企業との間には、生産性や労働条件などの格差もさることながら、人材の確保・育成の面でも大きな差があることは否定できない。

本論文では、中小企業の中核的人材に焦点をあて、人材の確保・育成を中心とした人的資源管理の実態を明らかにするとともに、人材の確保・育成について、改善の方策を提案する。調査対象は、関東に所在する中小製造業10社で、その経営者および人事担当者との面接調査と、各社の中間管理者10人の質問紙調査を実施した。

中小企業における中核的人材の量的・質的な不足は深刻で、採用充足率は大企業に比べて低い。しかし、本調査結果によると、中核的人材の定着率はかなり高かった。中小企業では、若くして役職に就くことも可能な実力・能力主義を採っていることから、中核的人材にとって、賃金や労働条件以外の魅力、すなわち、働きがいや生きがいを与えることができるものと考えられる。

また、経営者は、内部人材育成を重視し、外部人材に頼ろうとはしていない。しかし、集合教育や組織的なOJTは行われていない。とはいえ、非公式なOJTは多くの職場で行われており、OJTの組織化充実化が今後の課題であろう。

人材確保のためには、働きがいのある職場のイメージづくりと、採用コストを下げるための共同求人活動を提案する。